

# 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSWニュース 2月号

2018年2月1日発行

事務局：大浜第一病院  
〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：鶴渕 太郎  
(沖縄協同病院)

## 研修参加報告

### 性暴力被害者ワンストップ支援センター相談支援員養成研修を受講して

豊見城中央病院 地域連携室 東門 麻里子

昨年7月から10月にかけて、沖縄県子ども生活福祉部主催の『性暴力被害者ワンストップ支援センター相談支援員養成研修』を受講しましたので、ご報告させていただきます。

平成27年2月に支援センター型として開設された沖縄県ワンストップ支援センターは、今年、県立中部病院に病院拠点型センターとして生まれ変わります。相談支援員は、医療機関、警察、弁護士、児童相談所とのコーディネートを担います。被害回復までの道のりが長く険しいものではあることには変わりはありませんが、病院拠点型ということで総合的包括的支援が期待されています。

研修会の内容は、7/31(月)沖縄県における性被害の実態・性暴力とは何か～強姦神話～・被害者の理解・8/27(日)性暴力被害者に対する医療的支援～病院での診療とは～・性暴力被害が及ぼす影響、トラウマとPTSD 性暴力被害者への二次被害防止・ワンストップ支援センターに求められているもの、9/14(木)こどもと性暴力・相談支援の現場に必要な法的知識・性暴力被害者をサポートすること(1)支援員としてのスタンス(2)支援員の役割、10/15(日)性暴力被害者の心理～トラウマから回復に必要なこと～・被害者家族の心理～被害者家族への対応～・児童相談所との連携～司法面接について～でした。

県庁、県警、医療機関、NPO 法人、弁護士会、他府県性暴力救援センターなど様々な機関から行政職員、警察官、医師、弁護

## CONTENTS

- 性暴力被害者ワンストップ支援センター相談支援員養成研修 研修参加報告・・・・・・・・・・1～2
- 在宅医療、介護連携推進事業に係る意見交換会  
研修参加報告・・・・・・・・・・3
- トピックス 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の改正について・・・・・・・・4～5
- めだかの学校参加報告・・・・・・・・5
- 運営委員会議事録・・・・・・・・6～7
- はいさいワーク・・・・・・・・7
- コラム・編集後記・・・・・・・・8

士、心理士、相談支援員、性被害当事者など性暴力被害者に関わる方々が講師となり、性被害についての基礎知識から支援員としての心構えなどを教えていただきました。

福祉(安全確保)、刑事(被害確認)、司法(法的手続き)の連携体制として、県では、児相・県警・地検が協定を結び、初期被害調査面接を児相と県警と共同で行っていることを初めて知りました。法的手続きとして、刑事事件における被害者参加制度への国選弁護人費用の助成についても改めて学ばせていただきました。

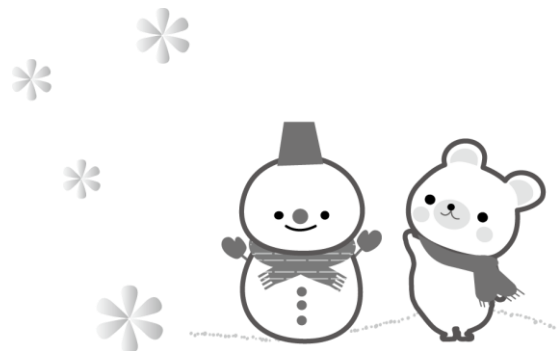
県警からは、平成29年7月に強姦罪が強制性交等罪へ法改正がなされたことが説明されました。刑法が成立して110年ぶりの改正です。『等』をつけることで紛らわしい表現になりましたが、女性に限定しないこと、親告罪でなくなったことは革新的です。ただし、年齢制限(13歳)、暴行脅迫という要件がなくならなかったことは今後の課題とのことでした。

被害者は、早い段階で話をしっかり聞いてくれる人、援助してくれる人に出会うことでその後の支援に結びつきやすいと言われています。ワンストップ支援センターが担うのは、急性期の身体のケアと体験後のケア、二次被害の予防、心理的準備(トラウマへの対応)です。支援者に求められるのは、『観る力、聴く力、つながる力』です。『対等と尊重、尊敬と関心』、『話して良かった』と思ってもらえる支援を心がけ、向き合い続けることが大事だと感じました。

印象的だったのは、『良い支援者とは、私(被害者または当事者)の体験を本当にまともに取り上げてくれて、確認してくれて、私が私の行動をコントロールできるように、助けてくれる人のこと。私をコントロールしようとする人のことではない(出典:心的外傷と回復 ジュディス・L・ハーマン)』というトラウマについての支援者の在り方への苦言でした。支援者は、自分の価値観や自身の認知の歪みを意識しながら目の前の対象者を理解しようと努めることが大切で、自分自身が安心したいだけの支援は、被害者や当事者にとっては的はずれな行動にすぎないということです。

最後に、支援者の二次的外傷性ストレスについても語られました。「受容する義務」、「社会的怒り」、「なんのための支援?」という支援者側の負担感が支援者自身を苦しめることがあります。アセスメント(危険回避、生活状況、ニーズ)、所属機関の枠組みの理解、支援者同士の情報連携、支援者自身の思い込みをさける、孤立しない、などがストレス回避方法、解決策として挙げられました。

MSWとして働く日々の中でストレスを感じることは多く、悩み傷つき落ち込むことがあります。無理せず自己研鑽していこうと思います。



## 研修参加報告

「在宅医療、介護連携推進事業に係る意見交換会」を終えて

平成 29 年 6 日

勝山病院 地域連携室 山城つきえ

---

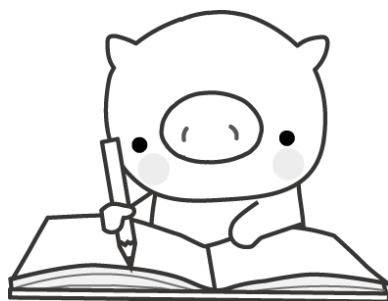
29 年 12 月 6 日に「在宅医療、介護連携推進事業に係る意見交換会」の北部圏域研修会を開催しました。8 市町村、5 医療機関、ケアマネ名護支部委員会、合計 40 名の参加があり、事前アンケートの市町村からの質問事項に沿って資料配布、医療機関より病床機能、入退院支援方法の説明、その後質疑応答を行いました。

地域包括ケア病棟への在宅からの受け入れの検討、回復期リハビリ病棟の自宅復帰率に老人福祉施設ショートは含まれるか？など活発な意見交換がありました。北部地域では 2 急性期病院に地域包括ケア病棟があり、現在は院内の急性期病棟からの転床で運用中であり、今後病院内で、在宅からのレスパイト入院も検討していくとの回答、回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟、7 対 1 病棟の在宅カテゴリーの確認をしました。

医療機関側から、65 歳以下の 2 号介護保険該当者、非該当者の方の地域包括支援センターへ相談するとき市町村によって対応が異なり、65 才以上の介護保険該当者に限定されることがある事について・・・市町村より「広域の総合相談窓口が来年設置予定で現在は包括支援センターが窓口になり、障害など役所内窓口に繋げてくので連絡して下さい。」との回答がありました。

今後の病院見学に関しては、各医療機関への事前連絡方法などのお知らせをしました。

終了後も茶菓子を食べながら名刺交換や情報交換し、今後の連携に向けお互いに“顔”あわせすることで理解を深められたと思います。



## トピックス

### 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の改正について

琉球大学医学部附属病院 石郷岡美穂

---

1981年、アメリカで免疫機能が破壊される新種の病気が報告され、後にCDC(アメリカ疾病予防管理センター)がエイズと命名しました。今でこそHIV(ヒト免疫不全ウイルス)はB型肝炎・C型肝炎ウイルスに比べると感染力が弱いとわかっていますが、当時は感染経路も治療法もわからず、米国は大パニックに陥ったといえます。

1987年、米国留学中の日本人研究者が世界で初めて治療薬を開発してから治療は進化を遂げ、現代は早期に抗HIV療法を開始すれば、日常を支障なく過ごせるようになりました。飲み忘れることなく内服継続できれば、血液中のウイルス量を検出限界以下に抑え続けることができ、免疫力が回復し、エイズ発症を防げると言われています。普通に仕事や恋愛をし、子をもつことも可能です。

陽性者の暮らしで劇的に変わったことは、内服でしょう。初期は多量の薬を1日何回も飲まなければならず、激しい副作用にも悩まされました。「薬を飲むために生きているようなものだ」と何かで読んだことがあります。今日は、1回に1~3錠、1日1~2回が主流です。副作用も大幅に改善されました。

生命予後も延び、死ぬ病気が死なない病気になり、これからは生きていく病気、慢性疾患となりました。従って陽性者も加齢に伴う心身の変化が起き、非陽性者と同様、介護や療養環境の調整が必要になります。

変わらないこともあります。根強い偏見差別です。患者さんはHIV陽性というだけで受診や施設入所を拒まれます。虫歯の治療や、風邪をひいただけでも拠点病院に通わなければならない現実があります。

2018年1月18日、『後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針』が全部改正されました(健感発 0118 第1号)。主な改正事項の中に“医療ソーシャルワーカー”の文字を見つけました。

『〈第三 医療の提供〉保健医療サービスと介護・福祉サービスとの連携等が重要になる中で、コーディネーションを担う看護師、医療ソーシャルワーカー等は介護サービスとの連携を確保することが重要であること。』

厚労省の通知が出た2日後の1月20日、沖縄県HIV臨床カンファレンスが開かれ、HIV/AIDS診療の従事者や行政職、陽性者の受け入れ経験がある医療関係者(MSWも!)約100名が集合しました。職種分科会で県から「沖縄県感染症診療ネットワーク事業(案)」の発表があり、事業3本柱の一つに「感染症診療

ネットワークコーディネーターの配置」がありました。事業案を書いた班長は「これからは県内全ての医療機関において、スタンダードプリコーション(標準感染予防策)を講じた感染症治療の協力医療機関をめざす。」と力強く述べました。※

陽性者が生活圏で医療や介護、福祉サービスを利用したい時、そのニーズに応える社会にするには、各領域の実践者が最新の知見を習得できる研修の機会や、受け入れ先の開拓、拠点病院との連携体制構築が必須です。沖縄県のコーディネイト役として我々ソーシャルワーカーにも期待が寄せられています。

※那覇市では昨年、救急告示病院の院長が協力病院になることを表明。

---

めだかの学校 テーマ「回復期における退院支援」

平成 29 年 12 月 20 日  
沖縄協同病院 医療相談室 玉那覇夏汀

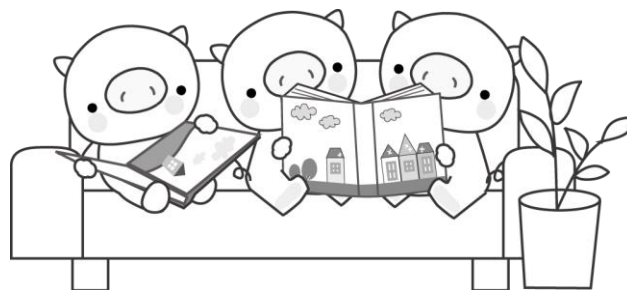
---

12 月のめだかの学校は、大浜第二病院・安慶名さんによる「回復期における退院支援」についてでした。

安慶名さんが MSW4 年目に対応した患者さんの事例をもとに、回復期の MSW としての患者さんとの関わりについてお話を聞かせて頂きました。生活背景や人間関係の変化、そして、障害の受容といった、その時々患者さんを取り巻く環境や気持ちに寄り添った支援の大切さを知りました。今後の支援の中で、そのことを意識していきたいと思いました。

そしてベテラン・先輩 MSW の事例を聞くことが出来て、とてもいい経験となりました。

安慶名さん、ありがとうございました！



## 平成30年1月 理事会 議事録

開催日時	2018（平成30）年1月22日（月）18:30～21:30
場 所	総合福祉センター
出席者	島袋、樋口（司会）、當銘、伊禮（記録）、石郷岡（連絡）、新垣、安慶名、秦

### 【各部会報告】

#### 1. 研修部（欠席）

九州大会実行委員会⇒2月13日（火）場所：ハートライフ病院

OGSV⇒3月14日（水）場所：未定

#### 2. 広報部（欠席）

2月号 MSWニュース 編集担当（沖縄協同病院：鶴淵）

#### 3. 社会活動部（秦）

第6回ソーシャルワーク学会&社会福祉公開セミナー実行委員会参加

#### 4. 渉外（樋口）

##### ■平成29年度入退院支援連携デザインに係る研修

##### ・（済）第1回デザイン事業 専門職研修

1月20日（土） 場所：宜野湾マリンパーク

##### ・（済）第2回デザイン事業 研修

12月23日（土） 場所：あやかりの杜

##### ・（済）第3回 デザイン事業 研修

1月13日（土） 場所：八汐荘

##### ・第4回 臨床倫理 研修

2月8日（木） 場所：総合福祉センター

##### ・第5回 デザイン事業 研修

3月17日（土） 場所：市町村自治会館

##### ■デザイン事業の進捗状況

- ・県から市町村へ医療と介護の連携について圏域ごとに進捗状況確認中⇒樋口会長参加

### <今年度の予定>

- ・2月3日（土）9時～12時 高齢者とがんについての研修 場所：那覇市立病院
- ・2月8日（木）デザイン事業 那覇市立病院（島袋）、沖縄協同病院（新垣）
- ・2月10日（土）がんフォーラム in 大分⇒樋口会長参加
- ・2月17日～18日 スーパーバイザー研修（日本協会）

- ・ 2月24日（土）第6回ソーシャルワーク学会&社会福祉公開セミナー  
場所：沖縄国際大学 ※チケットは事務局で販売中
- ・ 2月22日（木）デザイン事業 意見交換会見学会（豊見城中央病院）

#### 5. 事務局（當銘）

- ・ 退会者（2名）
- ・ はいさいワーク ○豊見城中央病院 ○南部病院 ○琉大付属病院

#### 6. その他（次回理事会検討議題）

- ・ 総会資料は事前に会員に郵送する。⇒段取りを確認する。
- ・ 協会組織体制を考える。
- ・ デザイン事業の振り返りと次年度計画について。
- ・ 2月15（木）19：00～20：30 臨時理事会（協会理事の役割及び定数について）

#### 【次回の理事会】

日 時 2月19日（月）18：30～  
場 所 総合相談センター  
担 当 司会：當銘 書記：石郷岡 連絡係：安慶名

### ■はいさいワーク

事業所名	社会医療法人友愛会（豊見城中央病院1名、南部病院1名）
応募資格	社会福祉士または、社会福祉士免許取得の見込みの者
雇用形態	詳細は当協会ホームページを参照もしくは直接ご確認ください。
勤務時間	8時30分～17時30分
担当者	社会医療法人友愛会 法人事務局 人事課
連絡先	098-850-3811

事業所名	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院
応募資格	社会福祉士
雇用形態	フルタイム非常勤職員
勤務時間	勤務時間：8時30分～17時15分（38.75時間／週）
担当者	琉球大学医学部附属病院 がんセンター 大久保 宛
連絡先	098-895-1374

---

## コラム「身近な関わりから気づくこと」

担当：N.S

---

医療ソーシャルワーカーとして勤めはじめ、早一年が経とうとしています。右も左も分からない日々ですが、何とか先輩方の指導をもらいながら業務にあたっています。私の勤める回復期病院では、自宅へ帰る人もいれば、施設へ入所する人、と本人や家族の様々な自己決定を日々目にしています。そんな方達のかになれるように日々奮闘中の毎日です！

さて、私事ではありますが、先日離島にいる祖母が体調を崩し入院となったのですが、一人でお見舞いに行った父に祖母の病状を聞いても「いやあ、血液データでなんかの値が高くて、何か低いらしい。」とイマイチどころか全く分かっていない様子。さらに今後施設入所は継続できるのかに関しても、「う～ん、戻れるんじゃないかな～。多分」の始末。病院の相談員と相談してきたという割には、全く理解できていない様子で私を含め他家族も困惑状態でした。

結果、精査目的の入院にて血液データの値も落ち着き、再入所に至り問題なかったのですが、私の支援しているご家族にもこのように、“伝わっているようで理解していないご家族”がいたのではないかと自分の説明力を見直すきっかけとなりました。「自分が分かっているから他人も分かってくれる」という事はなく、“その人が十分に理解できたかを確認する事”が大事なのだと改めて気づかされました。

今後関わっていくご家族へは、その人に合わせた話し方や説明の仕方を意識する事を学生時代にあれほど学んできたはずが、改めてこれからも学んだ事を忘れず支援していこうと感じた出来事でした。



沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

### ☆編集後記☆

お正月にインフル(A)となり、不調がつづき先週は久々に40度のお熱……。ずっと映画館でシリーズを追い見てきたスターウォーズも、新作はまだ見れてないといういたらく。去年10月に中部から南部にもどってきたばかりなので、きっとまだ南部菌耐性が弱いのでしょう。(南部の皆様またよろしく)皆様お体を大事に☆